

日 本製のハイグレード・オーディオケーブル「ゾノトーン」を主宰するのは、わが国のオーディオ界に広く知られた人物。そう、前園サウンドラボの代表者である前園俊彦氏だ。昭和10（1935）年生まれの前園氏は、70歳半ばの年齢。しかし、お会いして話をするとおおよそ年齢を感じさせない洗練とした若さに圧倒される。オーディオに対する造詣は特に深く、しかも熱烈な音楽愛好家であるから、話題が幅広く話に隙がないのだ。

その前園氏が自身の経験として培ってきたオーディオケーブル観を精魂込めて具体化したのが、ゾノトーンの製品群というわけだ。私は仕事柄、海外のオーディオメーカーの主宰者と話をする機会が多く、もちろんオーディオケーブルを製造する著名なメーカーも含まれる。だが、前園氏ほど熱く音楽とオーディオについて熱弁を振るう人は私は知らない。クールで分析的な話をする人が多いなか、前園氏は押し出しの強い1970年代のJBLスピーカーのように、音について熱心に語りかけてくる。若い頃には劇団に在籍したことがあるそうで、ストレートフォワードな彼の語り口は、若くして形成されたのかもしれない。

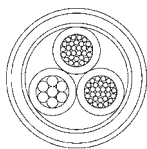
純度線材に傾倒していたところに前園氏が手がけていたオーディオケーブルと、現在のゾノトーンのオーディオケーブルの音は明らかに違う。その端的な違いは、体感的な音のリアリティであろう。耳で感じる高音質に加えて、ボディで感じる音の存在感がグッと高まっているという印象を受けるのだ。シンプルな高純度志向のケーブルは音スケの良さを圧倒していたが、じっくり聴いていくと生の音楽を味わっているというリアリティがやや乏しくなるのに気づく。その点、ゾノトーンのオーディオケーブルは充足感が得られる。

短期間ではあるが自宅でゾノトーンのケーブルを試聴する機会が得られたので報告しておこう。

まずエネルギーでワイドレンジな音を聴かせて私を驚かせたのは、電源ケーブルの7NPS-5050 Grandioであった。全体的に音が逞しくなり生気が宿った生々しい音が非常に印象的である。けっこう太めのケーブルなので引き回しを工夫する必要があったが、まさに圧倒的なパワー感を実現する威力はさすがであった。

そして、高音質オーディオケーブルの重要性を痛感させられたのは、微細なフオノカートリッジの発電エネルギー

7NPS-5050 Grandio ¥99,800(1.5m, 税別)
ゾノトーンの最高級電源ケーブル。7N銅、5N銅、純銀コーティングOFC、高純度無酸素銅の4種の導体を黄金比でハイブリッド化した3層マルチストランド燃りを採用している。



ゾノトーン・ケーブルは、 耳で感じる高音質に加え、 ボディで感じる 音の存在感がある。

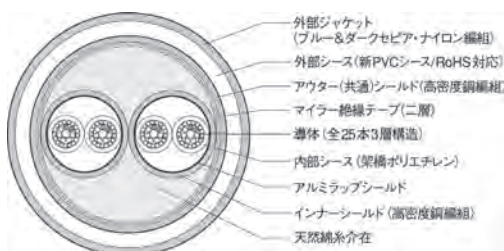
三浦孝仁

前園氏は当時JBLの輸入元でもあったオーディオメーカーの老舗、山水電気の出身であり、そこから転身して1987年に創設されたオルトフォンジャパンの社長に就任した。オルトフォン時代の前園氏は、音に惚れ込んでいたSPU（MC型フオノカートリッジ）の生産を本国が打ち切る予定と知り、なんとかSPUを存続させるためにデンマークのオルトフォン本社と折衝して、多大なリスクを背負いながらもSPUの継続生産を認めさせたという。もし予定通りにSPUがなくなってしまうと、現在のようないまオルトフォンの日本市場における成功はなかったに違いない。

SPUを存続させるために、前園氏はMC型カー

トリッジの音質を大きく左右する線材を探すことにした。これがオルトフォンの高音質オーディオケーブルのルーツであり、後に前園氏が高純度線材にのめり込むきっかけだった。まずはカートリッジ用の極細ワイヤートして日本鉱業による6N純度の銅線を手に入れることに成功した。その後、同和鉱業が開発した7N純度の銅線を採用するなど、前園氏「オルトフォンはMC型カートリッジの世界に高純度線材という新風を巻き起こすことになる。そして、高純度線材をテーマにしたオルトフォンのオーディオケーブルを自身の手で誕生させたのである。

前園氏がいま全精力を傾けているゾノトーンのオーディオケーブルは、彼が歩んできたオーディオ人生がストレートに反映されているといっても過言ではないだろう。私見を述べると、高



6NSP-6600S Meister ¥6,600/m(切り売りタイプ)
既発売の6NSP-4400S Meister(¥3,300/m)の、さらなるハイグレード化を図った最新スピーカーケーブル。それでも¥6,600/mと、ハイコストパフォーマンス製品だ。

いをフオノイコライザーアンプまで届けるフオノケーブルだった。ここではストレートタイプの5ピンDIN-RCA端子の8NTW-8080 Prestageという最高級品を試したのであるが、高度なCD再生の音をはるかに超えた、色濃く美音の艶に彩られた立体的なアナログディスクの音が愉しめたのだ。

ゾノトーンのケーブルは、何種類かの高純度導体を前園氏が体得した独自の黄金比でブレンド(配合)しているのだが、それとオリジナル構造を総称したDMHC方式を確立している。現在はDMHCがDuo方式とQUAD ORI方式へと進化しているようだが、前園氏の信念でもある高純度導体へのこだわりと、彼のオーディオ人生で得られた本物の音という感覚が、ゾノトーンの製品に息づいている。

スピーカーケーブルで特に感心したのは、新製品の6NSP-6600S Meisterだった。同タイプの4400Sを大きくした仕様で、1mで6600円という比較的安価な切り売りタイプのケーブル。音楽の躍動感を力強く描いてくれる能力と、リーズナブルな低価格を実現している。

ゾノトーンのオーディオケーブルは、今後は海外でも発売されるとい